

ここさこ通信 Vol. 8～福島県駐在（静岡担当）から～

今回は、今年度福島県避難者支援課の駐在職員（静岡県担当）をして下さっている神野藤（かんのとう）さんに書いていただきました。

○引用ここから○

今年度から静岡県の駐在職員を担当しております神野藤と申します。出身は、「中通り」と呼ばれる福島県の中央部、安達太良山のある大玉村になります。

私は今年度担当となり初めて静岡県にお伺いしました。静岡県に行って感じたことは、気候などの雰囲気は福島県と大変似ている、ということでした。静岡市などの都市部は郡山市に、また、都市部から一步離れれば顔を覗かせる海岸線や緑におおわれた山などの自然豊かな気候は、太平洋側沿岸の「浜通り」や県の西部に位置する「会津地方」を思い起こします。茶畑が並ぶ道路を通る時は、故郷の田んぼ道を走っているような気持ちになりました。

避難されている方々と実際にお会いし、話しを伺う時に感じるのは、震災後まもなく10年と避難生活が長期化したことにより、皆様の生活の御様子や抱えている課題が様々であるということです。特に今年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、避難先での生活に関する悩みに加えて、コロナ自粛によるストレス等による生活の不安も重なっていることと思います。

駐在職員として多くの方とお話をし、寄り添い、課題の解決に向けて取り組んでいかなければならないとの思いを改めて強くしたところです。

現時点ではコロナの影響により、避難者の皆様の元へお伺いする機会が少ない状況ですが、今後は新しい生活様式などに留意しながら、出来る限りお会いできる機会を設けていこうと思っております。お会いした際には、最近の福島の復興の様子や生活の雰囲気などもお伝えしたいと考えております。

○引用ここまで○

福島から避難されている方々にとって、同じ福島の方と会える、話せることの意味はとても大きいと、ここさこスタッフも感じています。コロナの影響で福島県職員さんの同行が難しくなっており、コロナ禍ゆえに地域との繋がりが希薄化し、心細くお過ごしの方々がいらっしゃいます。私たちの訪問が、気にかけているよ、という福島と静岡双方からのメッセージになれば。そう思いながら活動しています。